庶務報告No.1 都 市 整 備 部 令和4年3月25日

新金貨物線の旅客化について

交通政策課

1 報告内容

新金貨物線の旅客化については、高齢社会の進展や脱炭素社会の潮流などの社会状況の変化を踏まえ、令和元年5月に策定した葛飾区公共交通網整備方針の策定と併せて、南北方向の鉄道網の充実や区の活性化を図るために検討を進めてきた。

さらに、国においては、人口減少の本格化や交通事業者の経営状況の悪化などにより、令和2年6月に地域公共交通活性化再生法の改正を行い、原則として全ての地方公共団体において地域公共交通計画の作成が努力義務として定められたため、今後作成する葛飾区の地域公共交通計画に位置付けて取り組んでいくこととした。

こうした中、旅客化に向けて国道 6 号との平面交差の可能性について調査検討を進めてきたが、課題解決には時間を要することから、将来は全線開通を目指すものの、現時点では国道 6 号以南の区間について令和 1 2 年頃の開業を目指すこととしたため報告するものである。

2 検討経緯

資料1のとおり

3 今後の予定

資料2のとおり、運営主体や事業スキーム等、開業を目指す区間における旅客化に向けた調査を行うとともに、JR東日本など関係機関との検討会を設置し、事業化に向けた検討を進める。

新金貨物線旅客化検討経緯

【平成29・30年度】

国道6号新宿拡幅の事業進捗や、貨物列車本数が少なくなったこと、さらに地域の公共交通の活性化に関する国の制度創設に合わせ、再度旅客化の検討を開始

○国道 6 号と平面交差での運行による需要予測 を行い、10 駅案では約 3 万 8,000 人、7 駅案 では約 3 万 6,000 人の需要を見込めることが 判明した。

目的別輸送人員(千人/日:平日)

目的	10 駅案	7駅案
通 勤	24. 2	23. 6
通学	2. 6	2.4
私 事	10. 1	9. 2
業務	1. 5	1.4
輸送人員計	38. 4	36. 6

75, 25, 25, 25, 25, 25, 25, 25, 25, 25, 2		
駅 名	10 駅案	7駅案
京成金町駅	-3	-3
柴又駅	±0	± 0
京成高砂駅	-9	-10
青砥駅	-7	-8
京成立石駅	1	± 0
J R小岩駅	-8	-8
J R新小岩駅	+11	+11
J R金町駅	+3	+4
J R亀有駅	-2	-1

※上記鉄道の他、バス交通等への影響がある。

- ○鉄道施設や施設の使用に係る費用等を除いた概算事業費について、算出を行った。(電車案約200億円、LRT案約250億円)
- ○単年度における事業収支の試算を行い、振れ幅はあるものの事業化の可能性 を確認した。

単年度収支 7 駅案 約2.7億円 ~ -2.9億円

10 駅案 約3.2 億円 ~ -2.4 億円

- ※単年度収支の試算には、減価償却費や諸税、借入金の償還費等は含んでいない。
- ※運行経費算出時の原単位の考え方により、収支が変動することがわかった。

【令和元年度】

国道6号との平面交差が技術的に可能かの検証

○警視庁より国道6号の信号データを貸借し、道路信号が赤信号の時に想定している車両が通過できるか検証を行い、国道6号へ影響を及ぼさずに車両が通過できる可能性について確認ができた。

※令和元年5月 葛飾区公共交通網整備方針策定

※令和2年2月 新金貨物線旅客化整備基金新設

(1年10億円、100億円をめどに積立)

電車案の概算事業費約200億円の1/2を目途に積立

※令和2年4月 新金線旅客化担当係を新設

【令和2年度】

旅客化に当たって適用する根拠法及び事業スキームの整理

- ○旅客化に当たって適用する根拠法について整理し、鉄道事業法で運行することで今後検討していくこととした。
- ○事業スキームについては、既存施設と旅客化施設に分けて考え、5つのパターンに整理することができた。

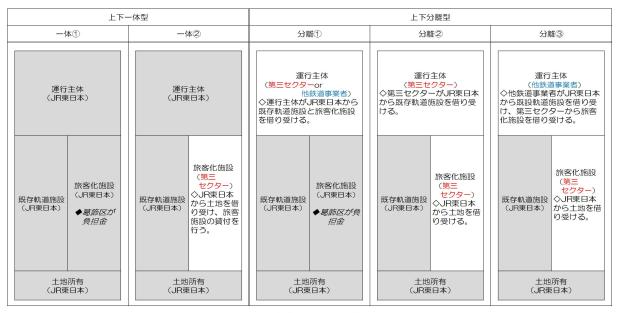


図 事業スキームの整理

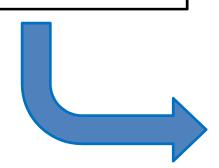
【令和3年度】

事業スキームの深度化や国道6号との平面交差における運行ダイヤ及び段階整備、国道6号との交差方法の検討

- ○事業スキームの検討を深度化し、JR東日本は運行主体とならないパターン について確認ができた。
- ○国道6号との平面交差を前提に、金町駅から新小岩駅までの配線計画及び 運行ダイヤグラムを検討し、平面交差での全線開通の可能性について確認を 行った。
- ○終端駅である新小岩駅に関して関係機関と調整を行い、配置位置の可能性に ついて確認を行った。
- ○国道6号以南である、新宿~新小岩間を段階的に整備する検討を進め、国道6号以南区間での需要予測を行うとともに、過年度想定した駅数において、貨物列車との行き違いとなる駅やダイヤグラムを活用した運行ダイヤ案を作成し、貨物列車との併存について可能性の確認を行った。
- ○現在、国土交通省首都国道事務所が行っている新宿拡幅事業の将来計画に おいて、新金貨物線を高架化する計画となっているため、高架化による影響 範囲などの検証を行った。

ステップ①平成 29~30 年度

- ・需要予測の算出
- ・ 概算事業費の算出
- ・ 事業採算性の分析
- 事業スキーム検討



ステップ②令和元~5年度

課 題

- ・法的な位置づけ
- ・国道6号等道路との交差方法等
- 貨物列車との併存
- ・旅客化が他の交通事業者に与える影響

検討内容

- ・事業スキーム及び事業主体の検討
- 需要予測 B/C、事業採算性検討
- 車両及び車両基地検討
- 施設計画 (駅位置、駅舎構造、信号シ ステム、ATS、架線、高圧線)
- ・踏切に関する調整
- ・他の交通機関への影響

令和 4 年度 ステップ③令和6~9年度 検討会立ち上げ

地域公共交通計画の策定 都市計画の手続き 環境影響評価手続き 工事施行認可 保守管理、検車方法 鉄道事業許可

まちづくりの検討

検討内容を整理した後

全線旅客化運行開始

ステップ⑤【2期工事】

(国道6号との立体化等 全線開通)

- 基本設計
- 比較設計協議
- 環境影響調査
- 実施設計
- 用地買収
- 鉄道事業許可変更 等



【令和12年度末】 旅客化運行開始 国道6号以南区間



ステップ4分和 10~12 年度

(国道6号以南区間工事)

- 駅舎建設
- 線路改修
- 旅客信号等整備
- 架線改修
- 車庫整備
- 用地買収



